

# 交通事故、被災者の移動、 日本語教育の対策求める

愛知県議会 木藤、加藤、荻原議員

木藤俊郎議員は、県が昨年、16年続いた交通事故死者数の全国ワースト1位を

死者が多い実態に焦点を当てた交通事故対策が重要だと主張した。県側はドライバーや歩行者に対する啓発活動などを進めると答えた。

荻原宏悦議員は、日本語指導が必要な外国人児童が増え続け、学校には授業だけでなく転入・転出の手続きなど大きな負担がかかっていることを説明。授業時間外の対応も含めた日本語教育支援の拡充を求めた。

大村秀章知事は、小中学校に配置する日本語教育適応学級担当教員について、1校当たりの人数の上限を新年度から撤廃し、「県全体で30人増やす」と答えた。

県側は、「関連団体や自治体と協議するなど検討する」と応じた。

策の必要性を訴えた。

リング協会(宮城県石巻市)が被災者に無償で車を貸し出し、西日本豪雨などでも同様の活動を展開していることを紹介した上で、同協会と協定を結ぶなど、被災者の移動手段を確保する対策の必要性を訴えた。



木藤議員



加藤議員



荻原議員

脱却したことについて「極めて価値の高いものだ」と評価した。さらに、高齢の

加藤貴志議員は、東日本大震災で約6万台の車が失われる中、日本カーシェア

大震災で約6万台の車が失われる中、日本カーシェア